



令和5年度長崎県障害者 芸術文化活動普及支援事業 レポート集



障害者芸術文化活動普及支援事業とは

障害のある人が、なじみある身近な地域で、芸術文化を享受し、多様な活動を行うことができるように、地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することをねらいとしています。

全国に障害者の芸術文化活動に関わる支援センター等の設置を行い、支援の枠組みを整備し、障害者の芸術文化活動を推進する拠点づくりをしています。

令和5年度普及支援事業で取り組んだこと

令和7年度、本県での開催を控える全国障害者芸術・文化祭「ながさきピース文化祭2025」をみすえ、障がいのある方々によるアート活動をより活性化させるとともに、その魅力を地域に発信していこうと、創作活動・表現活動を外部に発表する取組みを支援する助成事業や、作品・作者の発掘と支援者・作者同士の交流を目的としたセミナー、文化施設とのネットワーク形成を目的としたセミナーに取り組みました。

また、令和3年度より取り組んでいる相談窓口の運営、ホームページでの作品紹介と情報発信にも、引き続き取り組みました。

発行

長崎県障害者芸術文化活動支援センター

(事務局 長崎県障害者社会参加推進センター)

〒852-8104 長崎市茂里町3番24号 県総合福祉センター内

TEL : 095-842-8178 FAX : 095-849-4703

Mail : nagasaki-suishin2@mbr.nifty.com

支援者向け導入セミナー 創作体感・作品展示ワークショップ&講演会

2023.9.7
@諫早文化会館

今回のセミナーは、様々な支援の場において、障がいのある方の創作活動を支援していきたい、あるいは支援をもっと深めていきたいと考える方々、特に作品や作家があるがどうやって発信するか悩んでいる方々を対象に、障がいのある方のアート活動への関わり方や、アートを活かした取組みへのつなげ方などを学び、考えることを目的に開催しました。

講師には、昨年度に引き続き、中津川浩章先生をお招きし、今回は、午前中に「創作体感・作品展示ワークショップ」、午後からは「講演会&対話会」という、盛りだくさんの内容で実施しました。

午前中の創作体感・作品展示ワークショップでは、まず、様々な「描く」ワークに取り組みました。「線のワーク」では、ただひたすらに描きまくるなかで、何かが開放されていく感覚を体感し・・・「言葉」からイメージを描くワークでは、様々な感じ方、共通すること、納得や違和感、などなど、いろんな感覚を味わい、「創作」の「意義」のようなものを体感しました。

続いての展示ワークショップでは、自分たちの作品をグループに分かれて展示していきました。「見る人のための展示」という意識、テーマを決めて、テーマに沿った作品だけを「選ぶ」こと(飾らない作品もあるということ)などなど・・・まさにやってみないと分からない体験ばかりで、受講者の皆さんおおいに悩みながらも、多くの学びと実感をいただけたのではないかと感じています。

午後からは、中津川先生による、貴重なご講演をいただきました。アートと福祉や教育とを結びつける活動を全国で展開し、国内の主要な企画展・公募展でキュレーター等を務められている一方で、福祉事業所を運営し現場でも障がいのある方々のアート活動を支えている中津川先生ならではの講演で、様々な実例をお聞きし、障がいのある方々とアートとの関係性、展示(発信)することの意義など、考え直す機会となりました。

最後に、中津川先生を囲み、受講者と先生とでの対

話会を行いました。様々な立場の受講者から、それぞれの悩みや思いが打ち明けられ、先生がまたいろいろな実例を交えながら答えられ、受講者同士での意見交換もあり、大変有意義な時間となりました。



交流&実践セミナーはじめの一步

2023.11.21、12.18、2024.2.6
@長崎県美術館

11月から2月までの3回の連続講座で、作品はあるけれど発信の仕方がわからないと感じている支援者や作者を対象に、相互の交流と、発信するための知識や手法の取得を目的に、最終的にはともに展示会を作りあげるまでを学ぶセミナーを実施しました。

今回のセミナーは、令和7年度に本県で開催される全国障害者芸術祭に向け、県内で継続的に創作活動を行っている作者とその作品を発掘し、横のつながりを強めて、みなで芸文祭を楽しもう、というテーマのもと、企画しました。講師に県美術館の学芸員、森園敦さんを迎え、グループワークのファシリテーターには、県内で積極的に表現活動の発信に取り組む支援者4名にご参加いただきました。

初回のテーマは「作品の新たな魅力を発見しよう」。受講者がそれぞれ作品を持ち寄り、見せ合いながら、自分が感じる作者や作品の魅力を語り、グループのメンバーと意見を交わしました。話をするなかで、

そうして迎えた第3回は、県美術館運河ギャラリーにて、「作品を展示してみよう」をテーマに、実際に展示作業を行っていききました。事前に講師に作品の展示順と全体レイアウトを決めていただき、当日、受講者が額装し持ち寄った作品を、2人1組になって展示していききました。いろいろな展示のテクニックを教わりながら、メジャー片手に奮闘した受講者たち…。完成した展示場はとても雰囲気のある素敵な空間となりました。展示作業後は、展示準備や展示作業の感想を発表しあい、気づきを共有しました。

その後、展示会は2月7日から12日まで一般公開しました。ランタンフェスティバル期間中ということもあり、多くのお客様に見ていただくことができました。また、受講者とともに鑑賞に訪れた作者の方も多く、日頃の表現活動が形となり展示されているところを見て、みなさん喜んでいました。

自分では気づけなかった作品のすごいところ、個性や特徴に気づくことができました。

続く第2回は、「作品をどう発信していくか考えよう」をテーマに開催しました。今回は実際に展示することを念頭において、どの作品を展示するか…どんな額装にするか、紹介文(キャプション)にするか…などを考えていきました。講師から作品選定のポイントや題名の意義、キャプションの役割について説明を聞いたうえで、グループワークで意見を交わしながら、考えていきました。

セミナーの中では展示作品を決めるところまでを行い、キャプションの作成と額装は、受講者がそれぞれ持ち帰り、一ヶ月間かけて取り組みました。はじめての作業で戸惑いも苦労も多かったでしょうが、それだけ真剣に作品や作者と向き合う時間となったようです。完成したキャプションからは、支援者と作者の熱い、温かい気持ちがあふれていました。



<九州広域センター連携事業> 文化芸術と福祉のマッチング相談会 (長崎県内の文化施設における文化芸術活動に関するアンケート調査)

2024.2.27
@県立図書館ミライon

障害者芸術文化活動普及支援事業では、各県の支援センターをとりまとめる広域センターが地方ごとに設置されています。各県だけでは解決できない課題を、経験豊富な広域センターと連携して解決を図っていくことが大きな目的で、九州では福岡市のNPO法人まるさんが「九州障害者アートサポートセンター」を運営されています。

今回は、九州障害者アートサポートセンターと連携し、県内で文化施設とのネットワークを広げること、障がいのある人たちの文化施設へのアクセシビリティ向上へつなげていくことを目的に、県内の文化施設に対するアンケート調査と、ハイブリッド形式のセミナーを開催しました。

まずアンケート調査では、10月に県内の52の文化施設にメール等にてアンケートを送り、33件の回答を得ました。

次に、セミナー「文化芸術と福祉のマッチング相談会」では、福祉事業所やボランティア活動団体の支援者、文化施設の担当者などに参加いただき、はじめに九州障害者アートサポートセンター所長 樋口さんから、障害者芸術文化活動普及支援事業の概要や、文化芸術と福祉が連携した取り組み実例などをご紹介いただきました。その後、長崎県障害者芸術文化活動支援センターから、長崎県障害者芸術文化活動普及支援事業での取り組みや、令和7年度に本県で開催される全国障害者芸術・文化祭に向けた取り組みなどについて、紹介しました。

また、10月に実施した前述のアンケート調査の結果と、調査から見てきた本県の課題について、樋口さんから報告がありました。様々なハード面での課題が挙げられるなか、実はコミュニケーションで解決できることも多く、文化施設やイベント主催者に対する

内容は、「①障がいのある人の発表・鑑賞の機会提供について、興味がある・必要性を感じているか」「②発表の機会提供の有無/内容」「③鑑賞の機会提供の有無/内容」「④鑑賞に関する支援の有無/内容」「⑤発表・鑑賞の機会提供で取り組みたいこと」「⑥提供するうえで困っていること」の6つで、各施設における障がいのある人たちの発表の機会や鑑賞の機会についての状況を伺うことができました。

集計結果からは、障がいのある人の発表・鑑賞の機会創出の必要性を感じてはいるが、取り組んでいる施設はまだ半数以下で、特に自主事業での取り組みはかなり少なく、ハード面の問題からそういった機会を創ることが困難だと考えている施設が多いという状況が見えてきました。

アンケート調査の詳細は当センターHPに掲載していますので、あわせてご覧ください。

スキルアップの機会提供も必要ということなどがわかり、支援センターとしても、今後の具体的な取り組みが見えて大変参考になりました。

今後も九州障害者アートサポートセンターのお力を借りながら、文化芸術と福祉がもっと近づき、誰もが身近な地域で思うままに文化、芸術を楽しめる長崎県となるよう、課題解決に取り組んでいきたいと考えています。



発表の機会確保事業助成事業

令和5年4月～令和6年1月、障がいのある方々によるアート活動をより活性化させるとともに、その魅力を地域に発信していこうと、創作活動・表現活動を外部に発表する取組みを支援する助成事業を実施し、今年度は8件の事業が参加しました。そのうちのいくつかをご紹介します。

天然色～100のTシャツ展～

NPO法人TsunaguFamiry

2023.8.20-27

@みらい長崎ココウォーク（長崎市）

NPO法人TsunaguFamiryが長崎市を拠点に展開する「ツナグ・アートワークス」でアート活動に取り組む作者たちが描いたTシャツと、佐世保市の福祉事業所minatomachi factory所属の作家たちが描いたTシャツ、およそ100点を展示しました。

展示されているTシャツは、まさに100点100と通りの天然色！

Tシャツに直に描かれた作品たちは、額に収まり切れない勢いある作品ばかりで、重層的で立体的な作品や、筆遣いが楽しめる作品など、Tシャツをキャンバスにしたことにより魅力倍増でした。

また、休日には「オリジナルTシャツ作り」イベントも同時開催し、訪れたこどもたちでにぎわいました。



生きるもの展～愛徳の軌跡2017-2023～

ながさきRぶりゅっと

2023.9.17-30

@MUSEUM CAFE長崎南山手八番館（長崎市）

ながさきRぶりゅっとを主宰する徳永氏が作品を管理する長崎市のアーティスト・愛徳氏の作品約20点を展示する個展が開催されました。

様々な色彩で描かれた作品は、思わず見入ってしまうものばかり。いろいろな感情があふれ出て、見る方も心を揺さぶられます。

また、愛徳氏は文才も豊かで、絵画に添えられた文章もあいまって、作品の魅力を深めています。

会場となったMUSEUM CAFE長崎南山手八番

館は、観光名所「長崎グラバー園」の近く。カフェに訪れた老若男女、様々な国籍のお客様が目を留めていらっやいました。



みんなのフェス

社会福祉法人悠久会

2023.10.29

@山の上のカフェGarden (島原市)

社会福祉法人悠久会が運営する「山の上のカフェ」を右手に坂を上ると、特設ステージが現れました。ここでは太鼓演奏と合奏や、ハロウィンが間近だったこともあり、仮装した子供たちが音楽に合わせて一緒に踊ったりと、歌やダンスを楽しんでいました。

さらに坂を上ると、アート作品を自然の中に展示する森の中ギャラリーがあり、アートを自然の中で体感できる不思議な空間となっていて、自然がアート作品をより魅力あるものに演出しているような空間となっていました。

また、ステージ横ではライブペインティングが行われ、見に来た観客が太陽の下で自由に思い思いに絵

を描いて楽しんでいました。

会場のあちらこちらにアート作品が飾られており、自然の中でアートを体感できた一日となりました。



ちよろずちよろず音楽祭

NPO法人BaRaKa

2023.11.24-27

@福江文化会館他 (五島市・新上五島町)

11月の4日間、新上五島町と五島市の小中学校や福江文化会館などで、作曲家の野村誠氏とダウン症のミュージシャン新倉壮朗氏による演奏会が開催されました。

26日(日)福江文化会館での公演では、まず野村氏が鍵盤ハーモニカを即興で演奏し始めると、その演奏に合わせて新倉氏も鍵盤ハーモニカを弾き始め、いつの間にか二人の独特なハーモニーが広がりました。度々共演しているお二人ということもあり、息ぴったりの絶妙な演奏でした。

また、長机を楽器に見立て、新倉氏がバチで叩き始めると、野村氏がそれに合わせオルガンでの即興演

奏が始まり、音楽って自由なんだと改めて音楽の楽しさを感じる事ができました。

さらに、突然新倉氏が相撲の四股を踏みだすと、それに合わせて観覧者も一緒に四股を踏んだり、年齢や障害のあるなしに関係なく、自由に体を動かして、和やかな楽しい時間を過ごしていました。



★他、以下の2事業も、助成事業を活用して実施されました。

◆笑って交流「障がい者和我い輪い」まつり/12月2日 @五島市中央公園市民体育館
(主催:笑って交流「障がい者和我い輪い」まつり実行委員会)

◆L VILLAGE presents TRAP Exhibition /1月14日、18日、22日他 @県美術館、長崎県庁他
(主催:一般社団法人 L VILLAGE)

しまのみんなの音楽祭プレコンサート

認定NPO法人長崎OMURA室内合奏団

2023.12.10

@保健福祉センター（五島市）

障がいをお持ちの方々にも音楽を楽しんでいただきたいと、県内唯一のプロオーケストラ、長崎OMURA室内合奏団が、鑑賞環境に配慮したコンサートを2月に開催することを目的に、今回のプレコンサートを開催しました。障がいのある方、こどもたち、地域住民のみなさんなど、およそ70名の観客が集まり、聞き覚えのある曲や五島にちなんだ曲などを、楽しく鑑賞されていました。また、音楽や楽器に関するプチ知識のお話を交えたプログラムや、観客も一緒に手遊びをするプログラムもあり、これまで音楽にあまりなじみのなかった方も2月のコンサートを楽しみに迎えられるような、プレコンサートとなっていました。

また、本コンサートで共演する五島育成園さん、県立

鶴南特別支援学校五島分校さんと、今回のプレコンサートでも共演。お互いを尊重しあつた雰囲気素晴らしく、これからさらにコミュニケーションを深め、2月のコンサートを迎えられるのが、楽しみなものでした。

なお、2月3日(土)五島市中央体育館にて開催された本コンサートも大盛況だったとのことでした。



ツナグ・アートワークス in チトセピアホール 『音の行方』上映会&トーク!ライブ!!

有限会社ステージサービス

2023.11.25、2024.1.8

@チトセピアホール（長崎市）

11月25日、チトセピアホール内は客席が収納され、広いスペースの空いたホールの中央には、天井から大きな3枚の紙が吊り下げられていました。

大きな紙の前にいろいろな人達が集まって、壮大なお絵かきの始まりです。車いすの方も、よちよち歩きのお子さんも、みんな筆をとって思い思いに描きます。

紙は半透明で、両面から描いていくので、自分が描いているうちに反対側にも絵ができていき、不思議な感覚です。そのうち、こちらの絵を飾ってくれたり、自然と引き立てあつたりと、無言のやりとりが生まれてきます。どの方も楽しそうで、筆の運びに迷いがみられないのが、印象的。出来上がった作品は、いろんな個性と発見のつまった、見ていて飽きない作品となりました。

絵を描くことを通して、まさに心と心、個性と個性の通い合ったイベントでした。

かわって1月8日は、神戸を拠点に活動する即興音楽集団<音遊びの会>を招いてのトーク&ライブとドキュメンタリー映画『音の行方』上演会が催されました。

前半の映画上映では、音遊びの会の活動の様子や、彼らへのインタビューなどから、即興音楽が出来上がっていく過程を知ることができました。

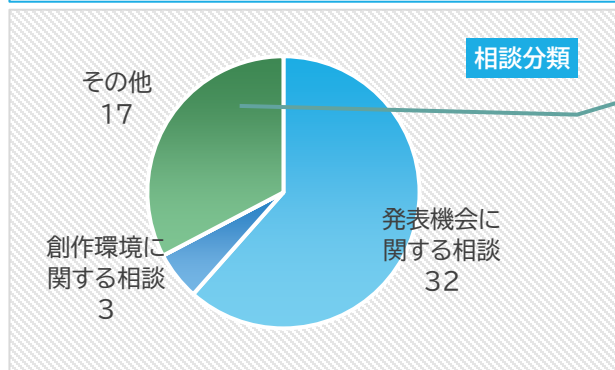
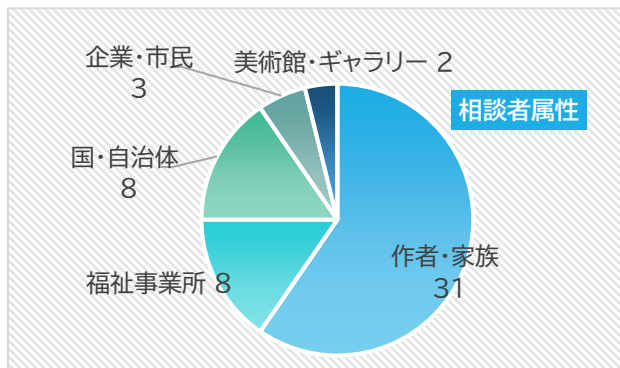
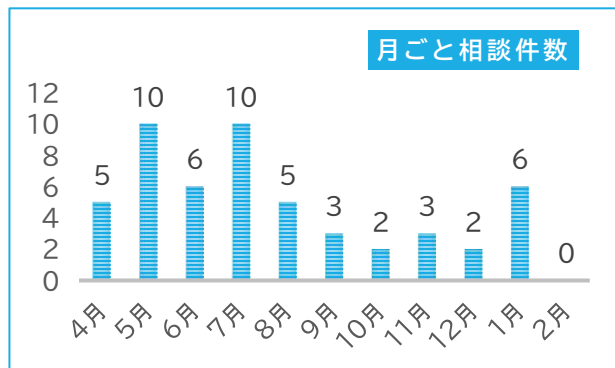
後半のトーク&ライブでは、上映映画の監督である野田亮さん、音遊びの会の皆さん、同会のCDプロデューサーをてがけた大友良英さん(『あまちゃん』の作曲家)への質問が客席から飛び出しました。

最後は、お待ちかねのライブ。ドラム・トランペット・ギター等の楽器をそれぞれ思うままに演奏する中で、思わずリズムを取ってしまうような音楽や、まるで民族音楽かのようなメロディーなど、独特な世界観の音楽が会場内に広がりました。11月のイベントで描かれた作品が、ライブに華を添えていました。



相談窓口

令和3年4月より相談窓口を開設し、弁護士などの専門アドバイザーと連携しながら、電話でのやりとりを中心に、同行、訪問等も加え、今年度は52件の相談に対応しました(令和6年2月末時点)。

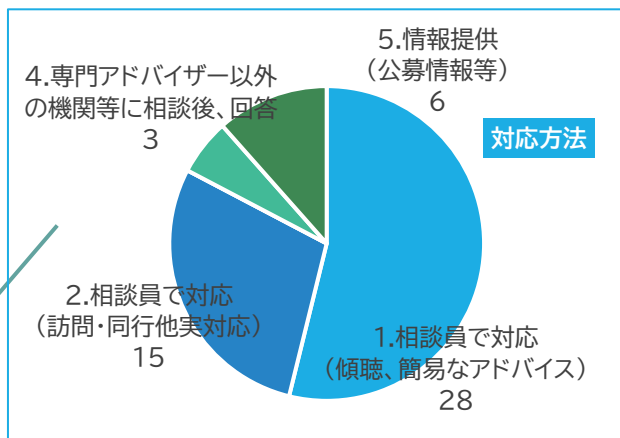


《その他》

- ◆ポスターへの作品起用に関する相談
- ◆鑑賞支援に関する相談
- ◆イベント開催に関する相談 など

《対応事例》

- ポスターへの作品起用に関する双方の仲介
- 作者と所属事業所との調整
- 発表の機会確保事業参加事業所の支援
- その他情報収集、提供など



ホームページの運営

ホームページでは、県内で活動する作家の作品投稿・紹介と、県内・全国のセミナー情報、公募情報、鑑賞機会の情報など、様々な情報発信を行っています。

<https://nagasaki-artsupport.com/>



◆投稿作品は、連携しているInstagramからも、見ることができます。

